

学校ホームページの毎日更新への取組

提案者 埼玉県立松山高等学校

くじらい  
鯨井

ともみ  
智巳

教諭、

あさみ  
浅見

かずとし  
和寿

教諭

ふじた  
藤田

あきこ  
暁子

教諭、

たんじ  
丹治

たろう  
太郎

教諭

実践に至った背景

- ◆ 学校ホームページは開かれた学校づくりや生徒募集に重要な役割を果たしている。
- ◆ ホームページ更新業務の一極集中や担当者の異動に伴う業務の中断が課題となっていた。

実践の内容

● チームで更新する体制づくり

- 1 若手を中心に「ホームページ更新チーム」を立ち上げる。
- 2 更新は1日1回、1名が担当する。
  - ・ チームの人数によるが、週1回担当する程度とする。
  - ・ 更新内容は、定期考査、校内研修、部活動実績など日々の教育活動についてとする。
  - ・ 担当者が該当の生徒・保護者・教員に「松コメ原稿用紙」を渡し、コメントを依頼、ホームページに掲載する。
- 3 更新の際は簡易起案を必ず行う。

他の教員へ以下を説明しチームを立ち上げる

- ① 毎日更新によりアクセス数の増加が見込める
- ② アンケートで本校に対する地域の期待が高まっていることがわかった
- ③ 毎日更新によりクラスや部活動の生徒に活躍の場を与えることができる

負担がかからない程度に行うことで、毎日継続的に更新できる

【資料1、2】

成果や効果

- ◎ 長期休業日を除き、毎日更新することで、年間40万件のアクセスを達成した。
- ◎ チームで対応することにより、担当者の異動があっても業務が中断されることはない。
- ◎ 生徒にコメントを書いてもらうことで、本校生徒の良さを外部に伝えることができる。また、出身中学校も記載することで、中学生に先輩の活躍を知ってもらうことができ、効果的な生徒募集にも繋がる。
- ◎ 更新者が生徒、教員、保護者へ取材を行うことにより、更新者の学校への帰属意識を高めることができる。

## 実践事例を他校でも活用できる方策等

### \* 他校で導入する際のポイント

- ☆ まず、有志数人などでホームページの毎日更新を実践し、サイトのアクセス数や、アンケート結果のデータをまとめる。そのデータを基に保護者・地域の期待の高まりを先生方に説明することで、「更新チーム」の立ち上げがスムーズに行える。

### \* 失敗しないための秘訣

- ☆ 毎日行うことが大切である。1週間に1人1回程度なので負担は少ない。
- ☆ 更新忘れを防止するため、当番表を作成し、次の更新者に渡していくルールにする。

### \* こうすればより高い効果が得られるという方策

- ☆ 「更新チーム」の仲間をいかに多くするかがポイントである。若手にとどまらず、学校全体に広げることにより、深みのある記事が掲載できる。
- ☆ 今年度の初任者2名も更新チームの一員である。教員、生徒に取材することにより、初任者の学校理解をいち早く深めることができ、また帰属意識を高めることができる。

## 外部有識者の評価

- 教育活動の発信という面では、とても良い提案である。
- 理想は若手だけではなく、全校で、様々な年代の先生方と協力して、色々な視点を入れていくことである。そこへの一歩として評価したい。
- 学校ホームページ更新はどの学校でも課題であるので、参考になる実践提案である。
- 教育活動を発信していくことは大切であり、他校との双方向の情報交換に拡大し、本実践を広げてほしい。

